2024年9月30日発行の
大人の名古屋に掲載されました。

動物のための

大人の PROTECTION

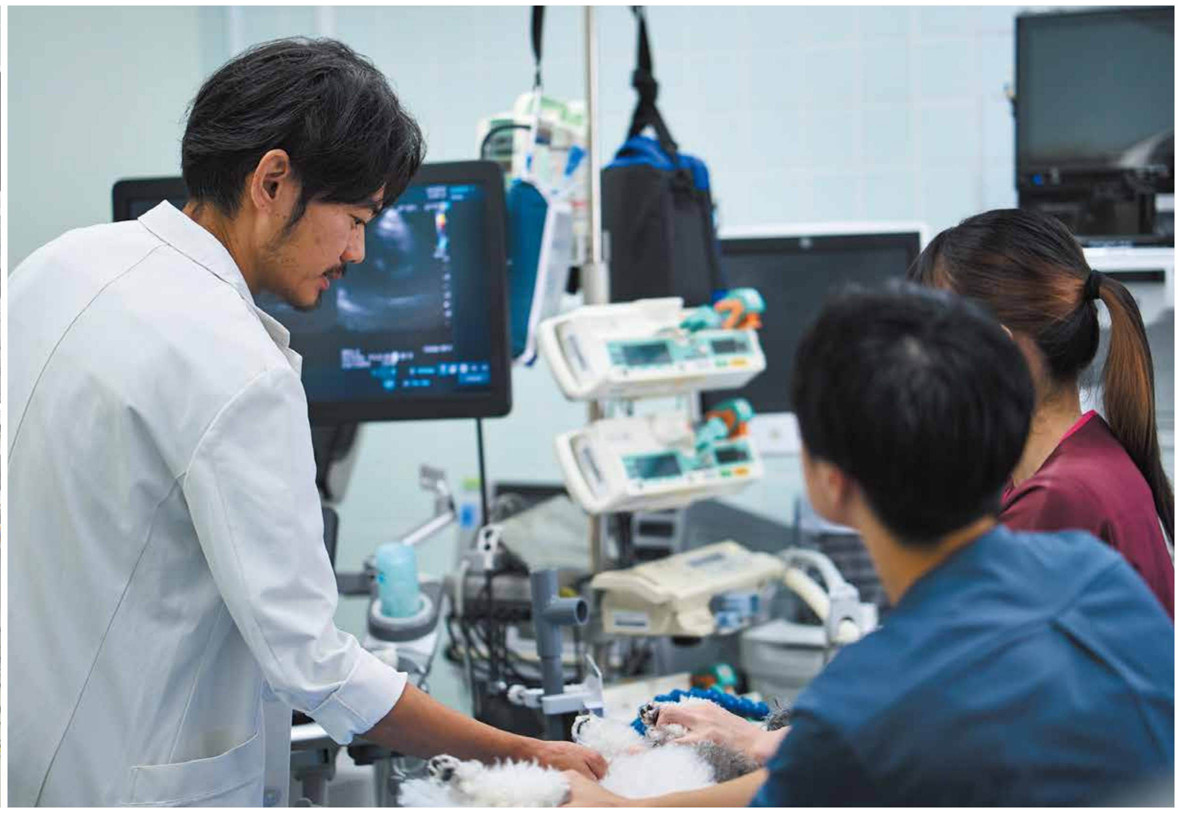
ANIMAL HOSPITAL

名古屋・茶屋ヶ坂

茶屋ヶ坂動物病院
ちゃやがさかどうぶつびょういん

飼い主の思いと寄り添い大切な命と健康を守る

上／超音波検査装置など高度な画像診断機器を駆使して診断。
下／民間医院では珍しい人工心肺装置。心臓手術の要となる。



国内有数の高度な検査機器と経験豊富な専門スタッフを有する茶屋ヶ坂動物病院。心臓検査だけでも年間1500件以上行っているという。

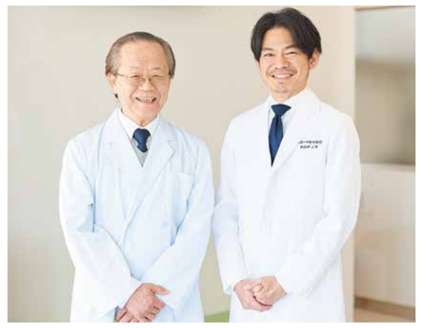
動物たちへの深い愛情と小さな命への敬意のもと、三原院長はじめ獣医・看護師がチームを組んで治療を進める。

世界に誇る技術とチーム力で大切な家族の命を救い続ける

地域の動物たちのホームドクターとして50年以上の歴史を持つ『茶屋ヶ坂動物病院』。現在院長を務める三原吉平さんは、先代院長であり、動物心臓外科の草分け的存在である金本勇氏と共に働き、その技術を磨いてきた。金本氏は動物医療がまだ充分ではなかった50年前から民間医院で心臓外科に取り組んできた稀有な存在。大学病院など限られた病院でしか行われていなかった心臓血管外科手術のノウハウを積み上げてきた。金本氏から後を受け継いだ三原院長も、数々の論文を発表し心臓血管手術の技術の発展に尽力。日本はもちろん世界でもトップクラスの症例数、成功率を誇り、難易度の高い手術にも対応している。

そんな『茶屋ヶ坂動物病院』には、苦しそうな様子や投薬で良くならない我が子をなんとかできないかと、高度な外科手術に望みを託し日本全国から飼い主がやってくる。そのため三原院長は年間２００件以上という類を見ない手術数をこなす。

「かつては心臓病＝不治の病でしたが、治る可能性があることを知ってほしい。外科手術で病気の根本原因を解決することで、絶望的な状態から劇的に元気になっていく小さな命。その生命力にいつも勇気をもらいます」と、通常の診療を行いながら最後の砦としての役割を果たそうと、手を止めない。そして、少しでも外科手術への不安を和らげることができたらという思いで、院内やホームページで手術を受けた家族の声を紹介しており、その感謝の声、術後の様子を知ることで、希望を見出す人も多いという。



動物心臓病学を牽引し続ける獣医

大学在籍時に金本氏の心臓手術を見学する機会があり、その様子と動物が回復する姿に感銘を受けたことが『茶屋ヶ坂動物病院』で働くきっかけだったという三原院長。2024年3月に金本氏は第一線を退いたが、論文を執筆するなど、精力的に活動する。

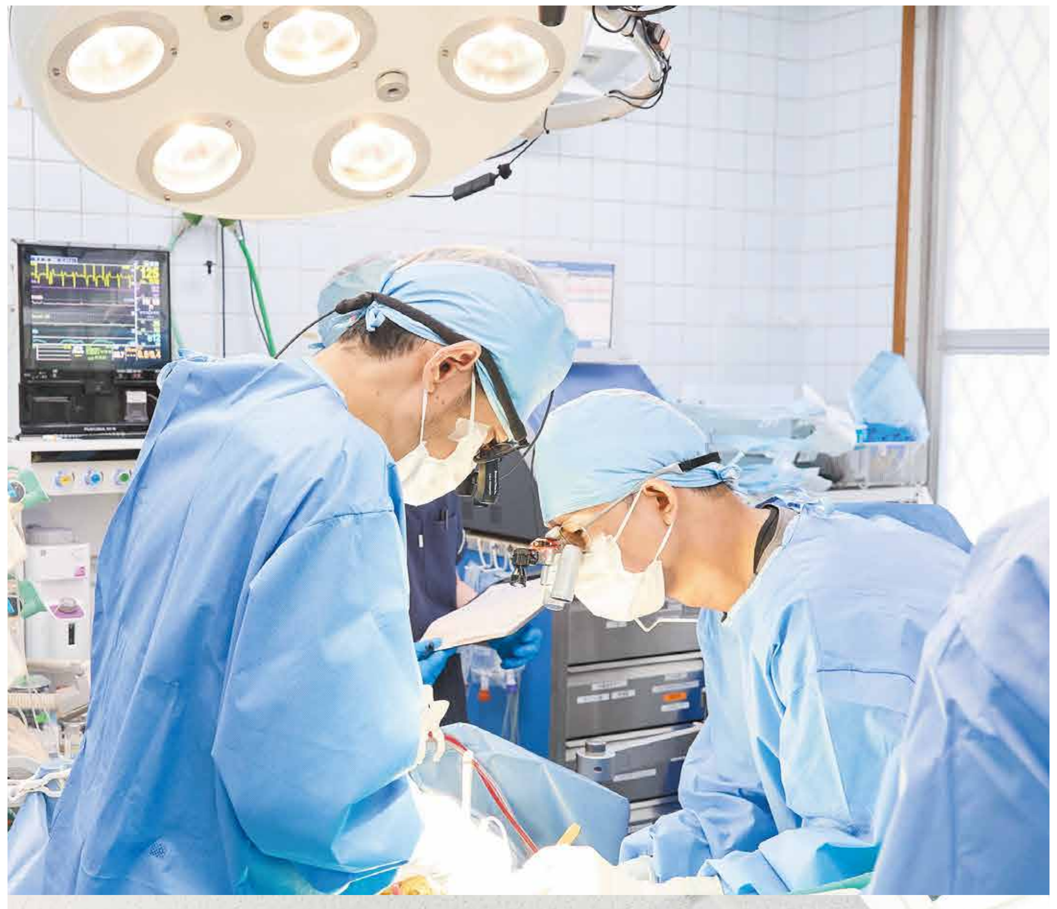
市営バス、香流橋東バス停からすぐの場所。50年以上この地で動物たちの命を見守ってきた。

他院からの紹介やセカンドオピニオンで訪れる人も多く、他院との連携も大切にしている。

2024年9月30日発行の
大人の名古屋に掲載されました。

動物医療の未来のため
小さな命と向き合い続ける

心臓の僧帽弁形成術に世界で初めて成功するなど、同院は心臓病治療のパイオニア。



明るく清潔感溢れる待合室。

専門性の高い循環器認定獣医が3名常勤。日頃の診察はもちろん、健康診断や予防ワクチンなど、予防医療にも力を入れる。

さらに技術を高め、心臓外科を目指すドクターの目標となる動物病院になりたいという三原院長。

右／一般診療では、総合診療や消化器科、整形外科など幅広い病気に対応。地域の動物たちのかかりつけ医としての役割も担う。左／獣医師、看護師、ケアスタッフなど、様々なエキスパートがチームとなって支えてくれる。

飼い主の思いを共有し
ベストな方法を共に考える

「わかりやすい言葉で対話を重ね、ご家族と共に二人三脚で治療を行っていくという姿勢を大切にしています。一緒に暮らしたいといった目標を共有し、それに向かってチームを組んで歩んでいきたい」という三原院長。その思いは外科手術に限らず、院全体の診療方針として貫かれていて、普段の診察でも獣医・看護師・ケアスタッフすべてが不安や心配に寄り添い、丁寧に説明することを心がける。

高度外科医療を行うことができる技術・設備・マンパワーを備えながら、いつでも気軽に健康について相談できるかかりつけ医としても常に動物たちに寄り添ってくれる『茶屋ヶ坂動物病院』。小さな命と常に向き合い歩み続ける病院と共に、大切な家族と人生を歩む喜びを感じてほしい。

DATA
●名古屋市千種区新西1-1-5
☎052・773・1866
営9:30〜12:00　15:00〜18:00
休火11:30〜
HPhttps://www.chayagasaka-ah.jp